



発行所  
一般財団法人滋賀県遺族会  
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34  
滋賀県遺族会館  
電話 (077)522-7227  
FAX (077)522-7233  
発行責任者  
滋賀県遺族会長  
松井 尚之

# 祖国の安泰と平和確立を

## 平和祈念・滋賀県戦没者追悼式

8月3日、猛暑が続く膳所公園内「英霊塔」前で平成24年度平和祈念・滋賀県戦没者追悼式が県下各地から遺族関係者ら大勢の参加者で今年も挙行された。

祭壇は各団体より寄せられた供花で飾られ華やか。大きなテントの中は来賓の方や、県下各地からの遺族関係者で約1000人余の参加者だった。

静かな雰囲気の中で、松井尚之滋賀県遺族会長の式辞。式典は二部形式で執り行われた。第一部は嘉田由紀子滋賀県知事、佐野高典県議会議長、越直美大津市長より諸々追悼の言葉をい



式辞を述べる松井尚之県遺族会長

ただ、3万有余の御霊に「悲惨な戦争の苦悩を身をもって体験した私たち遺族は、この悲しい歴史を二度と繰り返さないこと

を、また正しい史実を次の世代に継承し、国際平和の実現を追究していくことを誓う。

「幾多の困難を乗り越え、祖国の安泰と平和確立を願う」と平和宣言あり。

続いて、役員、参加者代表、来賓の献花で一部が終わった。第二部は大津市仏教会法中23人による追悼法要。戦没者の御霊を思い浮かべ、参加者全員の焼香で式典は盛大、かつ厳粛に滞りなく終了した。

\*\*\*\*\*

### 「追記」

法要中、今年も後方で私語が目立ち、余計に暑苦しい感じがした。「30分間の法要」ご辛抱を！来年度への反省する点であった。

(広報 北田潤子)

# 県議から力強い激励

## 第31回慰霊と平和祈願リレー行進

一家の大黒柱の父や肉親を戦争で失い、戦後の混乱期を生き抜いてきた体験は、もう誰にもさせたくない。

戦地で散華された英霊の願い「世界の

恒久平和を実現しよう。

「再び戦争を起ささない」「戦争遺族を作らない」を、広く地域の皆さんに訴えていこうと、今年も「慰霊と平和祈願

リレー行進」が行われた。

第31回となる今回は、松井尚之滋賀県遺族会長を団長とした200人のリレー行進団が、平成24年8月9日滋賀県庁前を出発。東近江市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町を訪問した。各市町遺族会員と一緒に訪問先の首長に行進の趣旨を訴え、理解と



「さらなる遺族会活動の展開を」と述べる嘉田由紀子滋賀県知事

# 「鎮魂の祈り」に包まれて

## みたま祭

### 提灯探し冥福を祈る

滋賀県遺族会が主催する、第36回「みたま祭」が8月13日から15日まで彦根市の滋賀県護国神社で斎行された。

13日は、午後6時より点灯式が行われ、約5200の提灯に明かりが灯ると、境内は厳粛な雰囲気になりました。「みたま祭」は、



献灯された滋賀県護国神社境内

### 来年以降の運営方法課題

戦没者の妻や兄弟は勿論、今や遺児の高齢化が進み、70歳を超えた人がほとんどで、「みたま祭」の運営にも支障を来す事象が散見される今、来年以降の運営方法も考えさせられる今回の「みたま祭」であった。

また、戦争の風化は直近の「中日新聞」の高校生アンケートでも、終戦の日を答えられたのは、僅か32%・玉音放送は8%というショッキングなデータなど、戦争を知らない平成の若者の実態が発表された。

我々戦没者遺族に課せられた課題が山積しているのが、現実である。

(広報 原幸男)

- ★参拝者の声アラカルト★
- ◇ニューギニアで戦死した父の慰霊で、小学生の孫と毎年お参りに来ています。一家の健康を祈念に来しました。(高島市78歳 父の提灯の前で)
- ◇5年ぶりです。93歳の母が元気なうちに、金魚すくいに興ずる孫2人と来しました。(大津市70歳)
- ◇母の遺族年金のお陰で毎年参っています。(守山市72歳)
- ◇祖父がボルネオで亡くなりました。初めて来ましたが、盛況ですね。(草津市戦没者の孫52歳と奥様・曾孫の中学生)

協力をお願いを行いながら彦根市の滋賀県護国神社に到着した。

滋賀県庁前を出発式では、嘉田由紀子滋賀県知事と佐野高典滋賀県議会議長から、滋賀県平和祈念館開館に向けての遺族会員の尽力に対する感謝の言葉と合わせて、今後の平和祈念館の運営に対する協力要請や次世代へ

の戦争記録継承の意義など、更なる遺族会活動の展開を行うようにと激励の言葉をいただいた。

愛荘町では、藤野智誠教育長が自らのサイパン戦跡慰霊巡拝体験を、豊郷町では伊藤定勉町長が叔父の眠っておられる靖国神社に遺族会員として参拝した思いを、激励の言葉の中で述べられた。



今回は、多くの滋賀県議会議員の皆さん

出発式で行進団の皆さんが地元遺族会員と一緒にリレー行進団を迎えていた。県庁前では、葛田恵子議員と沢田享子議員から、東近江市では、山田和廣県議会議長、

小寺裕雄議員、木沢成人議員の3人から、愛荘町では、宇野太佳司議員から、それぞれ「慰霊と平和祈願リレー行進」に深い理解を示した力強い言葉が述べられ、行進団は大いに元気づけられ、所期の目的を果たしたことを滋賀県護国神社の御霊に報告し、行進団は解散した。

(広報 竹井昌夫)

# 戦没者追悼式に参加して

## 平和な時代を後世に

滋賀県議会議員

佐野 高典



戦後67年が経過し、遺族会の永年の悲願でありました平和祈念館がようやく今年3月に完成し、竣工式に副議長として出席させていただきました。恒久平和の殿堂となるようご挨拶させていただきました。

ご縁があつて5月に沖縄戦没者追悼式に議長として遺族会の皆さんと一緒に参拝させていただきました。以前、自由民主党の有志の皆さんと「近江の塔」に参拝させていただきました。今回が2度目の参拝となりました。

沖縄戦において、滋賀県内の戦没者1695人の尊い命が失われたと聞き及んでいますが、亡くなられた英霊の皆さんにとって遠く離れた沖縄の地において祖国の安寧と発展を願いつつ、尊い命を捧げられた先輩諸兄の胸の内は筆舌に尽くし難い思いがあつたと推察を致します。追悼を済ませ、その日の内に石垣島に渡りました。翌日は石垣島でマラリアにより多くの皆さんが亡くなられた追悼式が行われました。

朝からあいにくの雨模様でありましたが、平和の鐘を鳴らし、慰霊碑前において追悼式が執り行われました。本土決戦を食い止める沖縄戦において、戦う覚悟を持ちながらマラリアという病に倒れた先人たちの悔しさはいかばかりであったろうと思うと、胸が締め付けられる思いでありました。式の最後に参加者全員で「ふるさと」

を歌うことになりましたが、戦いを終えいつかは帰る故郷を思いつつ、この八重山で命を絶たれた先人の悔しさを思うと胸がつまり、目頭が熱くなり歌を歌うことができませんでした。戦後67年が経過し、日本の平和や発展が当たり前のように感じている人々が多くなりました。しかし、今日の平和や発展は多くの英霊の犠牲によって成り立っていることを忘れてはなりません。また、最愛の肉親亡きあと混沌とした世相の中、幾多の苦難に耐え、生き抜いてこられたご遺族皆様のご心をお察しすると万感胸迫るものがあります。

時の流れとともにそのような苦難の時代を忘れがちではありますが、このような過去があつたことを忘れることなく平和な時代を後世に引き継いでいくことが肝要であります。私は、お盆やお彼岸に先祖のお墓参りをする時、先の大戦で亡くなられた地元英霊の慰霊碑に額ずき、お水とお線香

## 悲惨な歴史を若い世代に

滋賀県議会議員

野田 藤雄



の合同慰霊祭等、貴重な体験をさせていただきました。

さらに今回は、沖縄戦没者追悼式に参加させていただきました。大東亜戦争で激戦の地となった沖縄では、昭和20年3月26日から6月23日まで続き、日本人死者、行方不明者は多数の民間人を含め、約24万人とも言われています。

また、2日目の夜、八重山マラリア戦争遺族会の上原よし子さんの体験談や、八重山諸島におけるマラリアによる死亡者数が3647人と数えられ、本当にそんなことがあつたのかと、信じられない気持ちでした。追悼の言葉でも申し上げましたが、私たちは戦争の惨禍を繰り返さないためにも、この島で生じた悲惨な歴史を風化させることなく、若い世代に伝えていかなければなら

ないことを改めて胸に刻ませていただきました。沖縄は1972年5月15日に本土復帰を果たし40年が経過しましたが、今なお、在日米軍基地は、沖縄本島の約18%を占めています。この米軍基地を縮小して初めて本当の本土復帰ではないのでしょうか。改めて、先の大戦で最愛の家族を失われ、その悲しみの中にあつても苦難を乗り越えられ、社会に尽力されたご遺族の皆様方に改めて感謝を申し上げます。今日の日本の繁栄は、先の大戦で尊い命を賭して祖国を守ろうと奮闘された英霊に想いを致し、滋賀で暮らす私たちは、犠牲になられた多くのご英霊のお陰であると、改めて思いを強く抱かせていただきました。最後になりましたが、今回一緒に参拝していただいた方々に貴重な体験をさせていただいたことに感謝申し上げますと共に、今後益々のご活躍をよろしく願っています。

をあげさせて頂き、英霊に感謝の意を表し、手を合わせさせていただいています。戦後の長い歳月が流れましたが、厳しく辛い時代に祖国のために命を賭した先人諸兄の尊い精神を忘れることなく、平和な社会を引き継いでいかなければなら

ないと思っております。その先頭に立って活動頂く遺族会様の愈々のご発展と皆様のご健勝とご多幸のほどをご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



平成24年度滋賀県平和祈念・沖縄（南太平洋方面）戦没者追悼式参列の皆さん（平成24年5月27日）

# 沖縄「近江の塔」平和祈念

## 感想文

### 戦没者皆様のおかげ

滋賀県議会議員

富田 博明



お寺様のお言葉に諸行無常というお言葉があります、時の経つのは本当に早いもので、昨年も沖縄戦没者追悼式に参加させていただき、戦没者に来年も参加させていただきまますと約束してから10カ月が経ちました。

お約束通り今年も戦没者の皆様にお会いすることが出来ました。

さて、沖縄は、133年間は琉球王国

67年前は戦場、40年前は植民地であり、占領から27年間に及ぶ米国の沖縄統治、そして沖縄返還。私は当時19歳でした。

昭和47年5月15日琉球政府の解散と沖縄県の発足が宣言され悲願の本土復帰が実現いたしました。

しかし、復帰後の沖縄は反基地、反安保、反自衛隊など様々な問題に明け暮れ、今もなお沖縄の皆様は、日本国民の生命を守るために葛藤していただいています。

戦没者の皆様は「そんなはずではなかった」とお怒りのことと存じます。日本の祖国を守るために、多くの方々が、尊い命を犠牲にしてこられました。

今日、幸せな生活を送れるのは戦没者の皆様のお陰です。また、今日の日本社会の発展を築き上げて下さった諸先輩方の心の支えになって頂いた貢献者であり、

### 生の声を届けられるか

守山市議会議員

森 貴尉



方々、民間人を含めた沖縄戦没者約24万人のお陰であることを忘れてはなりません。

今回は、八重山諸島の石垣市にて「マラリアの悲劇」として語られる戦跡参拝は先の沖縄戦と様相が違い、強制疎開によりマラリア犠牲による民間人の被害が多いと聞き、戦争における多方面の影響は計り知れないと感じました。

実体験の講話は、感慨深く貴重な体験をさせていただき、遺族会の組織により大変な作業をしていただいていることは感銘を受けました。

遺族会の皆様が高齢になられる中、語り継ぐ戦争の記憶、日本人としての誇り等多くのことを若き私たちがどのようにして語り、後世に引き継いでいくのか、多くのことを考え、滋賀の平和祈念館完成に改めて感謝いたします。

今後の滋賀県遺族会の益々のご発展をご祈念いたします。

沖縄本土返還40周年、第二次世界大戦における連合国と日本の間で締結されたサンフランシスコ平和条約から60年の節目の時、私が守山市の議長として「近江の塔」追悼式典に初めて参列させていただき、平和祈念公園の他県に劣らず改修された立派な塔を前にして、現在平和であることの幸せ、日本人としての誇りを感じると共に、遺族の方々の心中をお察し申し上げます。

改めて、国のために命を犠牲にされた

戦没者皆様のおかげと感謝に堪えません。

私も遺族の一員として、このことを次の世代に伝えていくと共に、戦没者の皆様に恥じないよう全力で滋賀県の

### 再び繰り返してはいけな

滋賀県遺族会総務部会副部長

山川 芳志郎



5月27日から3日間「平成24年度滋賀県平和祈念・沖縄（南太平洋方面）戦没者追悼式」が行われ、私はこれに参加させていただきました。

この一行には渡邊光春滋賀県健康福祉部長、佐野高典滋賀県議会議員、森貴尉守山市議会議員をはじめとする来賓8人、総勢52人が参加する慰霊巡拝3日間の旅でした。

1日目、沖縄摩文仁の丘に建つ「近江の塔」の前で私達52人と地元関係者約20人の方が出席して下さり、追悼平和式典慰霊祭を厳粛の内に行いました。

2日目は石垣島に渡り、八重山戦争マラリア犠牲者慰霊碑の前で、また「八重守の塔」の前で慰霊追悼式を、さらに御神崎では海に向かって南方方面で亡くなった方々への慰霊を行いました。

3日目は竹富島に渡り防空壕、機銃掃射跡など戦跡を訪問して慰霊巡拝を重ねて参りました。

3日間の内、2日間は雨の中での慰霊巡拝でしたが、特に「近江の塔」での堀池四郎氏（栗東市）、マラリア犠牲者慰霊碑での平尾登志江氏（近江八幡市）、御神崎での野路嘉久氏（野洲市）の呼び

発展のために、献身的に活動する政治家を目指す所存でございます。

結びになりますが、滋賀県遺族会の益々のご発展と会員皆様のご健康ご多幸をお祈り申し上げます。

かけは心に迫るものがあり、胸が熱くなりました。きっと英霊に熱い思いは届いたものと思います。

激戦地であった沖縄とその近海において、10数万人にも上る多数の戦没者が出ましたが、これらの方々に慰霊の誠を捧げ、また戦争の空しさ、悲惨さを次世代に伝え、世界恒久平和の実現に向けてたゆまぬ努力を重ねることを誓って参りました。

なかでも八重山戦争マラリア犠牲者追悼式が行われた夜、マラリア戦争遺族会の語り部さん2人から体験を聞かせていただきました。

戦争と伝染病発生という二重の悲惨さを自らの体験を通して語られましたが、私は涙を流しながら聞かせていただきました。「人と人との殺し合いは絶対にあつてはならないことを命の続く限り伝えていきたい」と、熱っぽく語られたことが忘れられません。



石垣島御神崎で呼びかける野路嘉久さん



石垣島八重山マラリア犠牲者慰霊碑前で呼びかける平尾登志江さん

ただ、体験談終了後、語り部さんとの雑談の中で、沖縄やその周辺の島々が激戦地であったことが逆に観光地になり、戦争の悲惨さが風化されつつあることを嘆いておられたことが心に残りました。

人と人との殺し合い、そして今は年寄りた母達の姿。遺族各位の今日までの苦勞を思うとき、再びこの繰り返しては絶対にしてはいけなことをこの「沖縄方面戦没者追悼式」に参加して一層決意を新たにいたしました。

### スポーツの集い中止に

社会福祉委員会

恒例の「スポーツの集い」が、秋冷を感じる9月30日（日）竜王町ドラゴンハットで行われる予定でしたが、非常に強い台風17号が29日沖縄を通過し、東北東に進んで30日午後には大変申し訳なく、心からお詫び申し上げます。

平成25年度の「スポーツの集い」には、奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

（社会福祉委員会）  
委員長 田中靖俊  
委員 廣報 小林 信

滋賀県各郡市町

# あひろいなみ

## 忠霊塔を後世に伝える石碑を建立

長浜市遺族会小谷支部

ここ旧東浅井郡小谷村は浅井氏三代の城下町であり、浅井三姉妹のふるさとです。旧小谷村の「忠霊塔」は昭和15年に建立されたもので、大変大きく立派なものです。

もともと小谷山裾の小高台にありましたが、国道365号線の工事により、現在の国道沿いの平地に下ろされたものです。国道沿いであり、8号線へ繋がる交差点と言ふ一等地にあります。

「忠霊塔」内には戦没者の位牌が沢山安置されています。遺族会員が清掃をし、毎年慰霊法要を執り行っています。このような取り組みも年々困難になりつつあります。

これから先、「忠霊塔」も人々からすっかり忘れ去られ、再び移転されたり、廃棄されるかも知れません。

そんな危機感を持った私たち遺族会の有志が「忠霊塔」の建設された意義を後世に伝える石碑を建立し、併せて戦没した人々を顕彰しその氏名を永遠に残したいと思ひ、発願しました。

旧小谷村の遺族の人々（遺族会に入っていない人も含む）に建設趣旨と募金を訴えました。

当初予想していた以上の浄財が寄せられ、戦後67年が経過しても遺族の人々にとつて、戦没者は今なお大きな存在であることと、この地域の人々の心の篤さに感心したものです。

「忠霊塔」のすぐ近くに小谷小学校があります。碑文はこの小学生を意識したため、裏には日露戦争の戦没者9人と先の大戦の戦没者120人余の氏名を字別に刻印しました。

こうして石碑に刻まれた人々を見ていますと、その数の多さを改めて確認します。また、この人々一人ひとりに父母をはじめ祖父母がおられ、あるいは新妻、またその赤ちゃんがおり、1人の戦没者に10数人の家族、親族の悲しみ、悲嘆があったのです。



石碑に記された碑文

## 正法寺の慰霊祭

彦根市遺族会旭森支部

日清戦争・日露戦争から先の大戦で国のため散華された方は、郷土資料によると旭森六ヶ村で1771人の多くを数えます。

戦後67年を経過した現在、残念ながら遺族会入会者は95人となってしまいました。

当、正法寺町は80戸程で、25人の若者が戦死され、現在では15戸(23柱)を当町遺族会で守っています。

日清戦争から支那事変の頃までは、各戸が立派な墓を建立されていましたが、先の大戦では、家の柱とな



雨天の中行われた慰霊祭

## 又チドゥタカラ(命こそ宝)

米原市遺族会

平成24年8月11日に米原市主催の平和祈念式典が、ご遺族・市民・松井尚之滋賀県遺族会長をはじめ多くの来賓・市関係者を含め400人が参列し、米原市米原公民館で開催されました。

式典で、先の大戦で多くの命が失われた戦争の惨禍を二度と繰り返す事のないようにと、次のことを発信しています。

その1は、平成17年6月24日に制定、米原市「非核・平和都市宣言文」を未来を担う米原中学校3年・成宮弘昭君の先導で「私たちが訴えます 核を持つすべての国に すべての核兵器を 今すてよ！」と参列者全員で朗読をして、宣言の理念が実現できる日まで訴え続けることを世界に向けて発信する。

泉峰一米原市長が「戦没者の方々のご冥福を心からお祈り申し上げるとともに、ご遺族の皆様にご哀悼の誠を捧げます。」と式辞を述べ、瀬戸川恒雄米原市遺族会長が「戦争を知らない世代に、平和の尊さ、戦争の空しさを語り継ぎ、二度と戦争を起こしてはならないと、私たち遺族が中心となって訴え続けます。」と御霊に呼びかけをされました。

来賓の追悼の言葉に続き、参列者全員で「英霊に」をもちに多くの人に呼びかけ

最後に、米原幼稚園児40人の「手のひらを太陽に」の歌、手話を使い「ありがとうの花」が披露され、会場の多くの若い世代の保護者とともに、参列者全員が平和で心豊かな米原市に発展することを念じて式典の幕を閉じました。

(米原市遺族会 大長弥宗治)



沖縄訪問の体験を発表する江竜君

## 恒久平和を希う

東近江市遺族会

東近江市主催による第1回平和祈念式典が7月21日、愛東コミュニティセンターホールで開催され、戦没者遺族や市民約400人が出席して、戦没者を追悼し、戦争のない世界の恒久平和の実現への思いを一つにした。

舞台中央の祭壇には平和祈念の碑と各支部より英霊名簿が奉安され、出席者全員で戦没者の冥福を祈り、黙祷を捧げた。

西澤久夫市長が、「住民を戦場に送り込んだ役場の仕事を引き継いだ市として、責任を持って平和祈念式典を主催すべきだと考えた。平和の尊さ、戦争の残酷さを訴え、真の恒久平和に向けて努力する」と式辞を述べられた。



「ふるさと」「さとうきび」の合唱

待する」と、市内3000余柱の戦没者に追悼の誠を捧げた。

出席者全員による献花のあと、朝桜中学2年生の柴田綾音さんが3月、次世代戦跡訪問事業に参加した時の思いを綴った作文を発表。特攻隊として出撃する前日に写した、微笑む17歳の少年の写真と最後の葉書から、今の自分を見つめ直した。

愛東北小学校6年生23人は千羽鶴を祭壇に飾り、日本の美しさが歌われている「ふるさと」と、戦争の辛さを学んだ「さとうきび畑」の合唱を披露し、歌で平和への思いを伝えた。

最後に、畑博夫市議会議長が「東近江市平和都市宣言」を読み上げ式典の幕を閉じた。

(東近江市遺族会 藤田武男)

## 平和への思いあらたに

近江八幡市遺族会

第3回近江八幡市平和祈念式が8月4日、近江八幡市文化会館で開催されました。

戦争体験を風化させることなく、今日の平和な社会の尊さについて考える機会として、平成22年の合併・新市誕生以来、毎年この時期に開催されており、遺族会会員をはじめ約800人が参加しました。

この日は、祈念式典と記念事業の2部構成で行われ、祈念式典は黙祷、富士谷英正近江八幡市長の式辞のあと、高木健三近江八幡市遺族会長が追悼の言葉を壇上に設けられた「平和祈念の碑」に捧げました。

続いて、市内の戦没者、戦災被害者に哀悼の意を表し、市長をはじめ遺族会など各種団体の代表ら約150人が白菊を献花。さらに平和宣言の朗読、市内の小中学校の児童生徒による平和の折鶴約8000羽の献呈に続き、鹿見島・沖繩での次世代戦跡訪問研修に参加した児童・生徒らに参加した児童・生徒らが、その体験や感想を綴った作文を発表。最後に平和への賛歌の合唱で締めくくりました。

また、記念事業は今春開館した滋賀県平和祈念館の紹介が館長の端信行氏により



児童による平和の折鶴の献呈

り行われたのに続き、近江八幡市安土町老人クラブ連合会の女性会員26人により「出征」や「戦地からの引き揚げ」などの光景を再現した創作演劇「波乱万丈」が演じられ、迫真の演技が参加者の涙を誘っていました。

(近江八幡市遺族会 杉浦俊雄)

戦争の空しさ 命の尊さ 平和の大切さ

高島市遺族会

残暑厳しい8月18日午後2時から、高島市主催の「平成24年度戦争犠牲者を追悼し平和を誓う市民の集い」が高島市民会館で開催され、遺族会や教育関係者、学校関係者、各種団体、市民ら約450人が参加した。

横井貞夫高島市社会福祉協議会長の開会のことばで始まり、参加者全員で戦没者の冥福を祈り1分間の黙祷を捧げた。

表は会場の参加者の心を打った。15分間の休憩後、日本よし笛の会高島支部「ひつじ草」による「ふるさと」「精霊流し」「見上げてごらん夜の星を」の演奏があり、参加者はよし笛独特の見事な音色に聞き惚れた。

参加者全員が壇上に上がり献花のあと、高島市青年協議会演劇集団「つばめ」の皆さんによる平和都市宣言の朗読があり、美しく豊かな自然に抱かれた高島市が



閉会のことばを述べる井上秀次市遺族会長

残暑厳しい追悼式

高島市新旭町遺族会

新旭町遺族会は今年も、高島市主催の「戦没者を追悼し平和を誓う市民の集い」が開催された8月18日、新旭森林スポーツ公園

追悼式は午後1時に開式。参加者一同礼拝のあと、清水嘉夫新旭町遺族会長が式辞を述べ、参加者一同で戦没者に1分間の黙祷を捧げた。

新旭町遺族会の戦没者追悼式は例年、高島市主催の「市民の集い」に合わせて行



のテントはあるものの、残暑厳しい中で行う関係上参加者も大変。過去には式の中で体調を崩す人もいた。また、式の途中に突然の夕立ちで、住職にテントの中で読経をお願いしたこともあった。天候ばかりは如何とも難しい。

福谷 ちかさん(章津市)

週2回のデイサービスが楽しみ



地域女性 性部役員に道案内していただけ、福谷ちかさん

3町(3ha)あった田畑は、農地改革で7反(70a)に減ったが、それでも女が担う面積としてはきついもので、実家の援助を受けてこなしてこられた。息子さんも小学校5、6年生の頃から牛を使い、男仕事を担う等、家族一丸となって乗り越えてこられた。

國松 みつ江さん(栗東市)

百歳バンザイ



9月に練り行列に家の3人の孫たちが入ってもそれぞれ子ども(曾孫9人)を残暑の厳参加させるので、息子夫婦と孫しい秋晴夫婦の総勢18人、それも零歳かれの日、ら百歳までと、大勢で参加させ約束の午でもらうのが楽しみです。」と後3時に喜んでおられました。

お伺いすると、丁度娘さんが帰られた後でしたが、お疲れの様子嫁さんが筆談や耳元で話される子もなく、私の久しぶりの訪問姿は、母を亡くした私には自分を懐かしそうに迎えていただきの母の姿とダブリ大変羨ましかったです。

一年毎の研修と親睦会

甲賀市甲南町遺族会

甲南町遺族会は、研修と親睦を兼ね、膳所の英霊塔を1年毎に行っている。

今年も元気で遺族の皆さんが一堂に集まれたことに感謝して、乾杯の音頭も一段と大きく、ご馳走に舌鼓を打った。

甲賀市役所甲南庁舎前を出発。戦後67年が経ち、メンバーは戦争を経験された90歳近くの方から若い遺児でさえ、古希を迎える歳の者もいた。でもバスの中は終始なごやかで、昔話に花を咲かせた。

まず最初に護国神社に参拝し、宮司様による祈願があり、英霊に手を合わせ心新たにした。

その後、岐阜県に入り、金華山ロープウェイにて岐阜城の見学。高齢の方も杖を手になささと登って行かれるのにはびっくりした。

おかあさんを訪ねて

「毎日、朝夕仏壇にお参りして、大きな声でお経をあげる」と、週3日のデイサービスで送りいただき、辛いお言葉まじりの日はシルバーカーで神社の近くまでお参りして帰る。近頃のポストに息子(元知事)の書いた手紙や葉書を入れている。氏神さんにお参りして帰ることが日課です。」

(栗東市 的場恵美子)



県護国神社に参拝する甲南町遺族会の皆さん

# 戦没者の心 正しく認識

## 沖縄平和祈願大行進



滋賀県遺族会旗を掲げて大行進

今年、遺族会の役員がの当番になったこともあって、思いがけなくも、第51回沖縄平和祈願大行進のメンバーに選ばれた。

気楽なノンポリであった学生時代や、仕事に追われたサラリーマンの現役時代にも、何回か訪沖した。

平和行進の日、6月23日は沖縄戦に於ける日本側の組織的な抵抗が終わった日。言うならば、沖縄の「終戦記念日」である。

私たちが平和行進参加者は、季節の変わり目かもう一つつきりせず、時には肌寒く感じた本土から、梅雨明け宣言が出されたばかりの沖縄に入ったために、当日は67年前と同じか、それ以上かも知れないと思えるほどのジリジリと身を焦がされるような真夏の炎天下を、無言で、ひたすら南を目指して歩いた沖縄

の人たちの行動を追体験することになった。老いも幼きも、男も女も・・・沖縄の人たちは何のために、ひたすら摩文仁を目指したのだろう。

何が、あんなに苛酷な、あてのない行進に駆り立てたのだろうか。

自分になんか答えが見つかからないまま、奇妙な気持ちのまま、あれから2ヶ月ほど経った今日もまた、同じ質問を自分に問いかけている。

今日、8月3日、膳所公園での戦没者追悼式に参列した。知事や県議会議長をはじめとする来賓の方々が追悼の言葉を捧げられたが、「現在の我が国の平和と繁栄は、320万余

の戦没者の方々の尊い犠牲の上に築かれた」とか、「かけがえのない家族を残して、死地に赴かねばならない無念さを後世の人に再び味わせてはならない」という異口同音の追悼の言葉を聞いて、親父たち、彼らは本当に来賓の言葉にあるような、そうした気持ちで逝ったのだろうか。ふと沖縄で感じた疑問が重なって蘇ってきた。

彼ら、親父たちにしても、摩文仁を指した沖縄の人たちにしても、弾丸が飛び交う中での行動で、死を覚悟している点で戦時下、空襲警報が鳴り響いたとはいうものの、いきなり理不尽な死神が襲い掛かってきた広島や長崎の人たちとは、全く違う。だから、「過ちは繰り返しません・・・」方式のありきたりの追悼の言葉では親父たちには、不十分ではないのか。

さらに、親父たち明治生まれの世代なら「平和と繁栄の礎になるために」と言う大見得を切って戦死したとは考え難いし、また家族の将来を見届けられない無念さに憤死したなどと言えば、かえって「そんな女々しいことを・・・」と、叱られることは間違いない。

当時の人たちは、兵隊たちも、非戦闘員たる一般住民も、また男も女も、意識するとしなないと関わらない。

戦後教育をまざまざと感じた次第であった。

（滋賀県本部 運営委員長 杉江周作）

「靖国カレンダー」 一家に一部かかけましょう

維持会費 一口 五〇〇円

あなたの一口が運営資金となります。詳しくは、滋賀県遺族会館までお問い合わせください。

# 護国の英霊 国家護持を

英霊にこたえる会

去る6月22日、英霊にこたえる会滋賀県本部総会を開催し、遺族会を中心に約150人の参加を得ました。

英霊にこたえる会は目的として、「護国の礎となった320万の英霊に対し、国及び国民の尊崇と感謝の誠を表す

ため、これが公の行事として実施されるよう、広く国民運動を推進することを目的とする」とありま

長く、本当に長く言い続けている英霊の国家護持でありま

ここ数代、自国の礎より他国の横槍に

「むべ」なるかなと思わざるを得ない時代である。

本総会で基調講演を英霊にこたえる会副会長國松善次氏（元滋賀県知事）にお願いする。演題は「太平洋戦争と大東亜戦争」

私達の肉親は大東

の戦没者の方々の尊い犠牲の上に築かれた」とか、「かけがえのない家族を残して、死地に赴かねばならない無念さを後世の人に再び味わせてはならない」という異口同音の追悼の言葉を聞いて、親父たち、彼らは本当に来賓の言葉にあるような、そうした気持ちで逝ったのだろうか。ふと沖縄で感じた疑問が重なって蘇ってきた。

彼ら、親父たちにしても、摩文仁を指した沖縄の人たちにしても、弾丸が飛び交う中での行動で、死を覚悟している点で戦時下、空襲警報が鳴り響いたとはいうものの、いきなり理不尽な死神が襲い掛かってきた広島や長崎の人たちとは、全く違う。だから、「過ちは繰り返しません・・・」方式のありきたりの追悼の言葉では親父たちには、不十分ではないのか。

さらに、親父たち明治生まれの世代なら「平和と繁栄の礎になるために」と言う大見得を切って戦死したとは考え難いし、また家族の将来を見届けられない無念さに憤死したなどと言えば、かえって「そんな女々しいことを・・・」と、叱られることは間違いない。

当時の人たちは、兵隊たちも、非戦闘員たる一般住民も、また男も女も、意識するとしなないと関わらない。

戦後教育をまざまざと感じた次第であった。

（滋賀県本部 運営委員長 杉江周作）

「靖国カレンダー」 一家に一部かかけましょう

維持会費 一口 五〇〇円

あなたの一口が運営資金となります。詳しくは、滋賀県遺族会館までお問い合わせください。

参加者を募集しています!!

小中高生の戦跡訪問研修の旅

～次世代活動委員会事業～

1. 鹿児島方面

日程 平成25年3月24日(日)～26日(火)

募集対象 小4～高3生 40人

参加者負担金 15,000円

※知覧特攻平和館・ホテル館など沖縄戦に特攻隊員として飛び立った兵士の面影を顕彰し平和について学習します。

2. 沖縄方面

日程 平成25年3月27日(水)～29日(金)

募集対象 中1～高3生 32人

参加者負担金 23,000円

※普天間基地を展望し、住民・兵士の避難壕にもぐり、太平洋戦争では国内で唯一の地上戦が行われ、甚大な被害をこうむった沖縄に数多く残る戦跡を訪ねて平和学習をします。

\*県内在住の人ならだれでも参加できます。郡市ごとに定員があります。近隣の遺族会役員または遺族会本部までお尋ね下さい。

\*申込締切 平成24年12月26日まで

合掌 (大津市 栗田久聖)

# 終戦記念式典 これで良いのか

昭和62年8月15日、昭和天皇が日本武道館で戦没者へ述べられるお言葉とそとの姿、式場の一席で黙祷する私が、テレビの一面面に映し出され、翌朝兵庫県の上司から「武道館へ参列していたのか」との電話の問い合わせがあったことが忘れられない。

翌年は、病氣療養中にもかかわらず、那須御用邸からヘリコプターで移動され、昭和天皇の最後の全国戦没者追悼式

ご出席となった。今年も、滋賀県護国神社では終戦記念式典が行われ、日本武道館で行われる全国戦没者追悼式会場から流れる正午の時報に合わせて黙祷を行い、天皇陛下のお言葉を拝聴した。今年、滋賀県護



全国戦没者追悼式会場から流れる時報合図で黙祷

国神社終戦記念式典は、例年になく参列者となった。三日月大造代議士を筆頭に、有村治子参議院議員秘書や、滋賀県議会議長からは会派を超え、家森茂樹議員や沢田享子議員、中沢啓子議員、葛田恵子議員など16人の県議員が参列された。

昨年、一昨年の議会関係者の参列は数名程度で、今年も同様だが、今年にはなせこのように多くの議会関係者の式典参列となったのであろうか。

例年参列される各種団体の参列者も疎らで、拝殿の椅子席の空間は際立った。滋賀県護国神社主催の終戦記念式典ではあるが、滋賀県遺族会は県下市町遺族会へ遺族会としての参列をどのようにならしているのか。また、祭のスケジュールにとどめ、遺族会員それぞれに任せているのか。

県終戦記念式典への参列を求める前に、滋賀



にぎりめし、味噌汁の直会(県護国神社)

## 平成24年度終戦記念式典 滋賀県議会議員参列者名簿

平成24年8月15日  
滋賀県護国神社参拝者名簿から

沢田 享子 (大津市)	家森 茂樹 (甲賀市)
赤堀 義次 (米原市)	中沢 啓子 (彦根市)
葛田 恵子 (大津市)	西村 久子 (彦根市)
野田 藤雄 (長浜市)	江畑 弥八郎 (彦根市)
川島 隆二 (長浜市)	細江 正人 (彦根市)
富田 博明 (甲賀市)	山本 進一 (大津市)
富波 義明 (野洲市)	大橋 通伸 (長浜市)
青木 甚浩 (長浜市)	宇野 太佳司 (愛知郡)

(敬称略 順不同)



県護国神社山本宮司から短冊を受け取る清水育美さん

みたま祭最終日の8月15日、午後6時から滋賀県戦没者慰霊祭が滋賀県護国神社拝殿で執り行われた。

祭典の終了間際に若い女性一人が拝殿を訪ね、代表者の玉串奉奠に合わせて神殿に拝礼を行った。

## 特攻隊員の気持ち 手掛かりを求めて

「滋賀県遺族会の主要事業である『みたま祭』に初めて接し、特攻隊員や激戦地で散って行った多くの人たち(戦没者)の気持ちに僅かなりとも近づいた満足感と、今後も引き続き、特攻隊員の精神を探って行く道を歩む」と述べていた。

(広報 田中正彦)

「滋賀県遺族会の主要事業である『みたま祭』に初めて接し、特攻隊員や激戦地で散って行った多くの人たち(戦没者)の気持ちに僅かなりとも近づいた満足感と、今後も引き続き、特攻隊員の精神を探って行く道を歩む」と述べていた。

(広報 田中正彦)

# 感動！みたま祭で献灯

木之本町在住の清水育美さん(25才)。清水さんは、アサヒビール名誉顧問中條高徳さんの講演を聞き、特攻隊の話を知

その現地である知覧特攻平和会館を直接訪ねたのが昨年8月15日。尋常な精神では考えられな

山本賢司滋賀県護国神社宮司の筆により「清水孫三之霊」と書かれた短冊は拝殿前の大型提灯に吊り下げられた。

特攻隊員の気持ちを聴き出せる手掛かりがある」との思いから、清水さんの母方の伯父である戦没者「清水孫三」さんの御霊を慰め、社務所で献灯を申し込んだ。

## 広報委員会 座談会

# 機関誌「遺族の友」質の良い紙面を求めて!

今後とも会員との絆を  
この度の「遺族の友」第239号を拝見。素晴らしい編集に広報委員の皆さんのご尽力の足跡が読み取れ、心から敬服した次第です。「日本遺族通信」をはじめ全国の遺族会機関誌の中でも際立った出来映えかと存じます。今後とも会員との心のつながり「絆」を求めて、更なるご尽力を期待しお礼とします。

滋賀県遺族会顧問  
國松 善次

滋賀県遺族会が発行する機関誌「遺族の友」の質の良い紙面を求めて、このほど広報委員会が座談会を開催した。

滋賀県遺族会顧問の國松善次氏よりいただいた「遺族の友」第239号の感想メッセージをきっかけに、会員の皆様へより良い紙面を提供するために、紙面がどうあるべきかを話し合っ

① 行事の報告記事中心で、マンネリ化し読んでもらえていないのか。  
—— そのためには、多様な内容の工夫が大切だ。

② 日本遺族通信の記事内容とダブらないようにしたい。

③ 地域に根ざした身近な話題の原稿を発掘できたら。

④ 写真を豊富にして記事を身近なものに。

⑤ 滋賀県内の話題を中心に楽しく読んでもらうために、次のような話題も具体的に考えられるのではないか。

- 地域の行事の一コマを取り上げる
- いろいろな趣味を持つ会員の紹介
- 遺族が経営する企業の紹介
- 地場産業の紹介
- 道の駅の紹介等

⑥ 平和祈念館を訪問した母親が涙を流し、当時を偲んでいた。

—— 平和祈念館を訪れた方の感想をシリーズで取り上げたらどうか。

⑦ 平和祈念館の入館状況やイベント情報も取り上げられたら。

⑧ 執筆者名を掲載しているが、「名前が載っていたね」と声かけがあり、読んでもらっている確認にもなるので続けたい。

⑨ 会員減少等、遺族会が直面している課題等の報告記事も掲載したら。

⑩ 掩体壕(八日市・布引丘陵)・列車壕(米原・岩脇山)等、滋賀県護国神社参拝後施設見学を。



質の良い紙面を求めて議論する広報委員会

等々、広報委員の夢も膨らみます。この夢を何処まで実現できるかは未知数です。会員の皆様も「遺族の友」への感想、ご意見など委員会へお寄せ下さい。お待ちしております。

# 特別会員からの 暑中見舞いのお礼状

今年も特別会員（戦没者の妻）とのふれあい活動の一環といたしまして、709人の方に暑中見舞いのハガキをお届けし、ご機嫌をお伺いしました。

郡市の女性部長（女性委員会委員）が名簿の確認をしましたが、残念なことにお亡くなりになってしまった方、連絡の取れない方も少しありましたが、うれしいことに13通のお喜びのお返事をいただきました。

その中の4通を紹介させていただきます。

なお、紙面の都合上掲載できなかった方のお名前を紹介させていただきます。（五十音順）

磯辺きみさん（東近江市中里町）	小亀美代さん（蒲生郡日野町）
江南龍さん（近江八幡市出町）	田中静枝さん（守山市川田町）
北村艶子さん（彦根市大藪町）	西川マスさん（草津市川原）
國松みつ江さん（栗東市出庭）	藤崎きぬさん（大津市膳所）
久保とくさん（大津市坂本）	（女性委員会 委員長 的場惠美子）



お見舞状有難うございました。いつも何かとお世話様になります。本年は殊の外天候不順でございませう。皆様の御健康をお祈り致します。いつも過ぎし日のお世話になった日々の守田会長様のおやさしく美しき中に凛々しさを保ち、御指導下さいましたお姿をいつも想い浮かべております。戦いの荒野に果てし多くの兵士達、その人達の命の分まで頂いたのか残りし、未亡人達。永生きさせて頂き過去を偲んで居りますが、老いの深まる毎に、無の世界への旅立ちも楽しく感謝の気持ちが増して来ます。

○永遠に霊は通りよ無の世界  
○見えぬ霊あの世この世を通じ合い  
日々、駄句を綴って楽しんで居ります。

（大津市枝 田中もとさん）

暑中お見舞い申し上げます  
何時もくお見舞いを頂き有難う存じます  
七月十五日は主人の戦死の日なので 三重県の護国神社へお参りに行って来ました 私は名古屋で戦災をうけて信楽の親元へ逃げて来ました でも幸に行く生活は主人が守って下さると思つてがんばっています  
お世話になります よろしく

（甲賀市信楽町 松井波子さん）

暑中お見舞い状いただき有難うございました 十七年度より毎年もらったえはがきが残して有ります 今年は何時になき暑さがつづきますが皆々様にはお元気でかつとめなされますか 私もおかげ様で天気が良いと毎朝一時間程押し車をおして散歩に行きます 足は歩きにくく 耳は遠くなり 腰は曲がついているし 年が年ですので仕方有りません 私も大正五年十一月二十九日生まれてす 九十七才に成ります 毎日何もせずにも何も嫁さんがしてくれています 仕方ありません とも何てもしてくれまますので有りがたい事と思つています 皆様も暑さに負けずお勤め下さいませ どうぞ御身大切に 皆様に宜しくお伝え下さいませ

（高島市新旭町 前川たつさん）

暑中御見舞有難く拝受しました。「ささの葉サラ／＼軒場のつるしお星さまピカ／＼」の なつかしい歌声と共にきびしい夏が訪れました。心暖まるお便りを頂戴致し嬉しくて一言お礼申し上げます。

きびしい暑さと共に世の中のあわただしき日々 目を廻して一本の杖頼りで居ります。年を重ねると共になつかしい友のすべてが旅立ちました。何とか御仏さまのお守りを致して居ります。残りの人生大切に致します。

乱筆にて一言お礼まで 「感謝々々」

（愛知郡愛荘町 富居春さん）

## 靖国参拝応募作品

### 俳句

奥野 きぬ・選

靖国の庭に残りし春の雪

（彦根市）辻 俊子

再会はいづれも花のお浄土で

春遠し殉じた父の無念さよ

（愛荘町）土田 幸夫

淡雪や涙で唄う九段の母

冷たさを父に重ねて聞く祭文

（長浜市）長谷川順二郎

風花や遺影やさしくほほえみて

（米原市）桂田 孝子

はつはるやへいわとあいのとうとさよ

しんめふきしのおおもいをこめつつも

（彦根市）中山 薫

御手洗の溢れて宮の春近し

春雨や白鳩群れる九段坂

（野洲市）野路 嘉久

父偲び花の社に胸あつく

父に会ふ花の鳥居を急ぎ足

（愛荘町）前田 いそ

今春行われた滋賀県遺族会靖国神社参拝旅行では、旅の思い出を綴る「俳句」と「短歌」を募集したところ、多くの皆さんから感動の作品を寄せていただきました。

前回（平成24年6月30日発行）に引き続き掲載いたします。

なお、俳句選者、短歌選者からの総評は前回掲載済みです。

（広報委員会）

### 短歌

母坪みち代・選

殉国の若き遺影に添えられし花嫁人形 親の愛見る

象山の地下壕歩く足元に往時の世情偲ぶひととき

（彦根市）廣松 隆也

ひまごよりの折り紙も添え靖国に安らかなれとひたすら祈る

しかられし思い出無くも靖国の父と語りて心安らぐ

（草津市）福井 敏子

名譽の死末代までも伝えよと戦地の記録孫達に見す

靖国の祀られし父は三十路なり年若き

同胞の遺影に咽ぶ

（竜王町）大西 初枝

靖国の父に亡き母の思い告げこうべをさげつつ涙ふく吾

（愛荘町）吉岡太一郎

靖国の宮に参りし三十八年の英霊は交わらず我は老いたり

（高島市）岸田 孝一

靖国の御霊の前で手を合わせ夢見も適わぬ父に語りぬ

二才にて父と別れしわれは古希今靖国の御霊に告げむ

（竜王町）白井ふみ江

在りし日の餅むさぼりし父のこと母より聞きし偲び祈らむ

父に逢うその一心で訪ね来れば九段のさくらほころびて待つ

（米原市）藤田 紀代